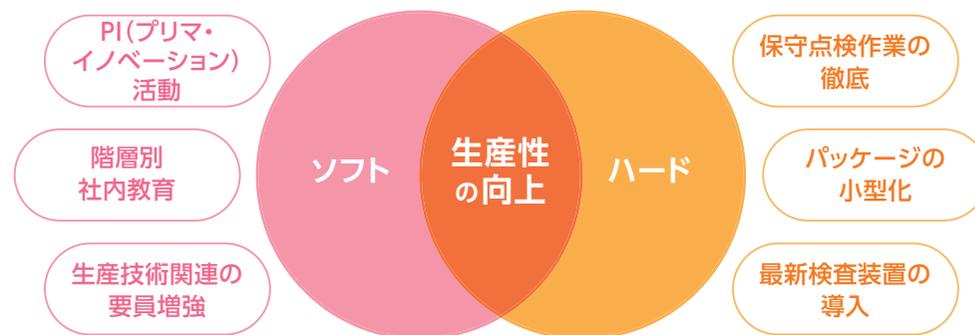


## 生産性の向上

商品の競争力をさらに向上させていくために  
ソフト・ハードの両面から生産性を高めていきます

プリマハムグループは現在、「2017～2019年度中期経営計画(ローリングプラン)」において、「安全・安心を担保する生産体制の確立」「競争力のある生産能力の拡大」を方針に掲げています。現在の生産性向上への取り組み、そして今後の成長に向けたビジョンなどを生産本部長の佐々木久志が説明します。



## PI活動の推進によって毎年10%の生産性向上を目指す

プリマハムグループでは、「ソフト」と「ハード」の両面から生産性の向上に取り組んでいます。

「ソフト」において最優先に取り組んでいるのが、「PI(プリマ・イノベーション)活動」です。PI活動では、現場担当者が1週間で改善できるテーマを選定し、設備の稼働率や作業効率といった対象別の定量指標を掲げて改善に取り組み、週1回の定例会で状況を確認しています。例えば、指標より停止時間が長い装置があれば、原因を追究して改善策を実施し、翌週の定例会で改善状況を報告する…というようにPDCAをしっかりと回すことで、稼働率を高めています。これまでハム・ソーセージを製造する

4工場で10年間実施し、毎年10%の生産性向上の目標を掲げ、成果をあげてきました。この成果を踏まえて、2017年4月からはグループ会社の加工食品工場にも導入し、さらなる効率化を目指しています。

「ハード」においては、既存設備を安定稼働させることに主眼をおき、保守点検作業を綿密に進めています。また1例として、生産性向上という点では、ロースハムのパッケージを小型化したこともあげられます。これによって一度に包装できるパック数が1.5倍に増え、包装資材コストは25%削減できました。この成果をほかの商品にも広く展開し、コスト競争力と生産性を高めていきたいと考えています。

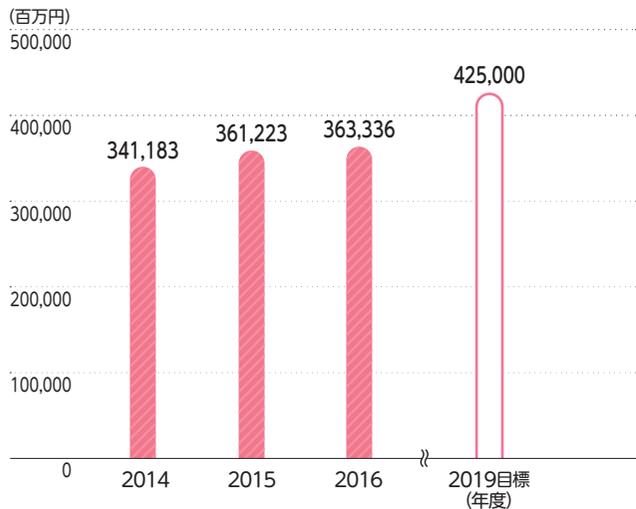
## 「香薫®」に続くプリマハムを代表する新ブランドの構築に向けて

さらに、今後の成長に向けて必要なことは、「香薫」に続く新ブランドの構築だと考えています。そのために生産部門が担うべき役割は、安全・安心を大前提に、さらなるコスト競争力を追求することです。数年後には、関税の引き下げによって海外から数多くの商品が日本に入ってくるはずですが、そうしたときに、「おいしさ」と「安全」にプラスして、もうひとつ魅力をつくっておくことが重要だと考えています。実は、建設中の茨城第二工場では、こうした発想を踏まえた設計を進めており、今後の成長に大きく貢献できるものと期待しています。

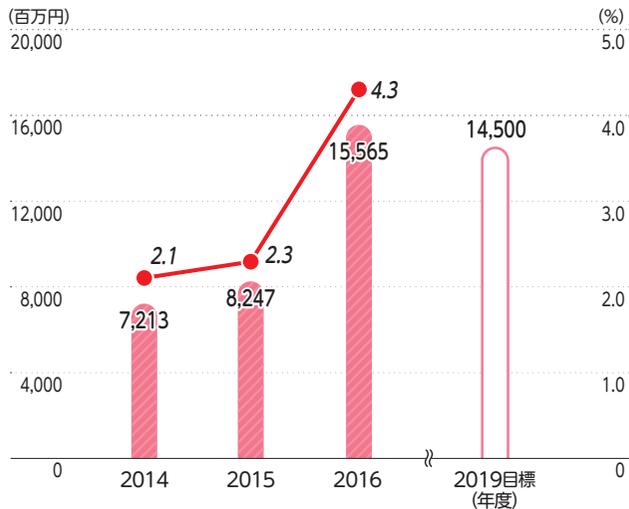


取締役  
生産本部長  
佐々木 久志

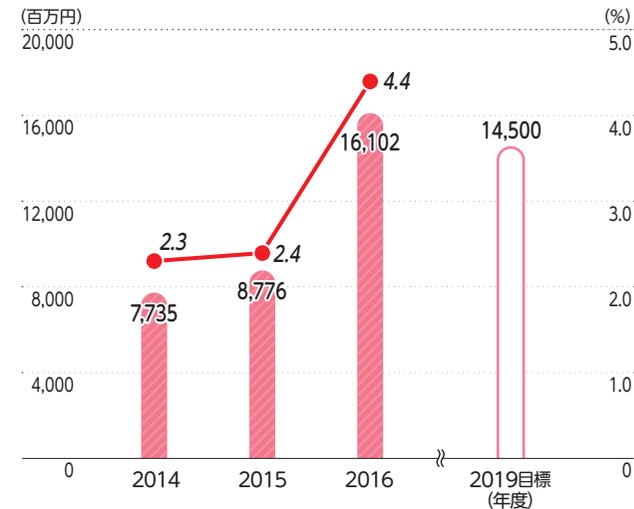
■ 売上高



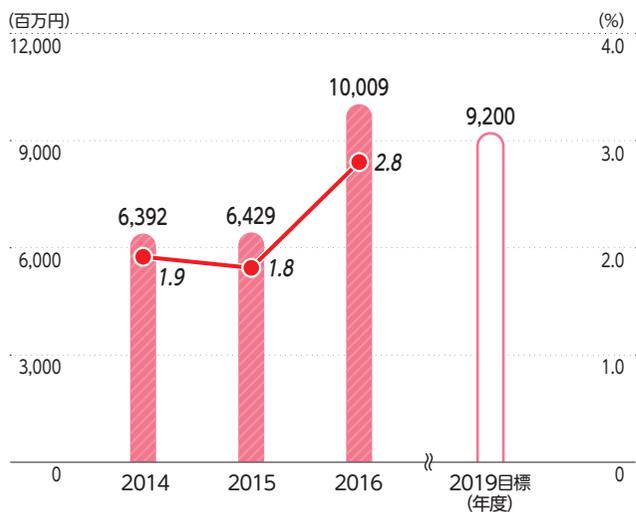
■ 営業利益



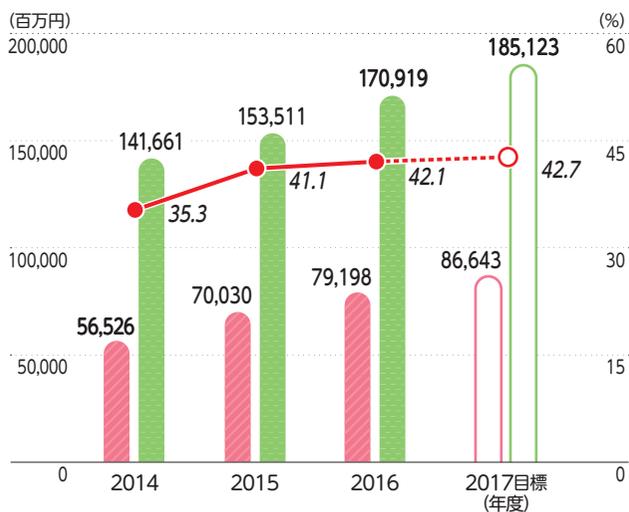
■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する当期純利益



■ 純資産 ■ 総資産



セグメント別売上構成比(2016年度)

